

兵庫県保険医協会 但馬支部ニュース

No.153

2017年8月25日発行

発行 兵庫県保険医協会但馬支部
連絡先 〒669-5346 豊岡市日高町伊府660
谷垣医院 TEL/079-644-0010 FAX/079-644-0706

但馬支部第31回総会記念講演

「地域包括ケアと地域医療のありかた」

～どうなる但馬の医療・介護・福祉～



医療・介護・福祉の各分野から27人が参加

但馬支部は7月23日、但馬長寿の郷(養父市)にて第31回支部総会を開催。総会議事では、2016年度の活動まとめと2017年度の活動方針が採択され、役員改選で支部役員、評議員が選出された（3～4面参照）。

記念講演では「地域包括ケアと地域医療のありかた～どうなる但馬の医療・介護・福祉～」をテーマに、佛教大学社会福祉学部教授 岡崎祐司先生が講演し、会員ら27人が参加した。

（2面につづく）

(1面からつづく)

記念講演で岡崎先生は、政府・厚生労働省は「地域包括ケア・システム」の名のもとに、問題対応の優先順位・役割の順番として、自助→互助・共助→公助をあげ、社会保険を共助とし、公助の役割を制限する構想になっていることを指摘した。

また、本来の「地域包括ケア・システム」は、地域医療を中核の一つに位置づけ(もう一つの中核は相談援助、ケアを含む社会福祉)、第一線の医科・歯科の診療所、中小病院の役割機能を再評価し、診療報酬上の改定を行う必要があり、有床診療所の機能強化や、在宅の口腔ケアを充実させる報酬改定も合わせて必要とした。

そして、医師は患者の生活にも関心をもって、トータルに患者を把握する姿勢が求められており、個別ケースをめぐって医療・社会福祉が連携できる実質的な体制や、住民とともに専門職が、草の根から「地域包括ケア・システム」の実践を示し、政策主体側の構想に対抗する必要性を強調した。

参加者からは、「高齢化が進む但馬において、地域での医療・介護・福祉の連携がより一層重要になる」、「社会保障分野において公的責任が縮小されているなか、財源論も含め議論していく必要がある」などの感想が寄せられた。



講師の
佛教大学社会福祉学部教授
岡崎祐司先生

幹事会だより

7月1日(土)日高地区公民館で第173回幹事会を開いた(3人出席)。以下、主に議論された内容を報告する。

- 「他科を知る会」は、新たに「救急医療」をテーマに発足する。公立豊岡病院但馬救命救急センターの小林誠人先生をアドバイザーに年に1～2回程度のシリーズ企画で開催予定。第一回目の開催を11月に予定している。
- 医科歯科連携の一環として、「口腔ケア」をテーマに会員懇談会を開催したい。

※幹事会は、会員の先生あればどなたでもご参加いただけます。お問合せは、担当事務局 足立 (TEL : 078-393-1805) まで。

兵庫県保険医協会但馬支部役員 敬称略

支部長	谷垣 正人（豊岡市）	古澤 倫代（美方郡）
副支部長	下山 均（美方郡）	馬庭 幸二（朝来市）
	藤井 高雄（豊岡市）	山田 真義（美方郡・歯科）
幹事	森 和夫（養父市）	由良 徹也（豊岡市・歯科）
	坂本 健一（朝来市）	吉田 仁志（豊岡市）
	野田 昌男（豊岡市）	顧問 谷 尚（養父市）
	長谷川正宜（豊岡市）	名誉支部長 新田 誠（豊岡市）

2016年度活動報告

- 1、第30回支部総会記念講演（7/10）では、「医療政策から見る医療情報IT化・地域医療連携・情報リテラシーの動向」をテーマに前兵庫県医師会事務局：安慶名（アケナ）正樹氏が講演。会員ら8人が参加した。総会議事では、谷垣正人先生（豊岡市）を支部長に選任、新田誠先生を名誉支部長に選出した。
- 2、協会研究部と共催で下山均副支部長を講師に「保険請求事務講習会」を開催（9/10）、会員医療機関事務職員ら9人が参加した。
- 3、シリーズ企画の症例検討会『他科を知る会』（整形外科シリーズ）を日高医療センターで2回開催（6/30、12/8）、会員や勤務医ら延べ15人が参加した。アドバイザーの同病院顧問：芦田一彌先生より、整形外科領域の多数の症例を検討した。参加された先生方から「日常診療に役に立つ」と好評を得ている。
- 4、公立豊岡病院の教育研修講演の位置付けで同病院と共催で5回目のライフプランセミナー開催の要請があり、当協会から中野労務ファイナンシャルプランナー事務所代表：中野任基氏を講師に「勤務医のための生活設計～失敗しないためのプランニング」を開催した。若手勤務医ら7人が参加。企画通じて協会入会を呼びかけた（11/18）。
- 5、協会研究部と共催で在宅点数研究会（講師：下山均副支部長）を開催（12/10）、11人が参加した。
- 6、会員医療機関の公立豊岡病院、公立八鹿病院からの要請もあり、適時調査等の対策として「届け出医療の活用と留意点」学習会（講師：下山均副支部長）を開催（4/26）、15人が参加した。
- 7、協会歯科部会と共催で歯科審査指導問題等会員懇談会を開催（4/29）、10人が参加した。
- 8、職員接遇研修会「患者さんとのコミュニケーション力の向上」（講師：目白大学短期大学部学長 油谷純子 先生）を開催（5/20）、28人が参加した。
- 9、日高医療センター無床化問題で、住民組織「地域医療をまもる但馬の会」からの要請もあり「病床廃止方針の撤回等を求める」患者署名に協力、支部長名で会員医療機関に協力を呼びかけた。また、同会が主催する住民集会（11/12、2/18）に谷垣正人支部長、藤井高雄副支部長が出席し、地元医師の立場から発言した。

(3面からつづく)

- 10、勤務医未入会員対策として、但馬地域の10の公立私立病院長宛に谷垣正人支部長より紹介状を得て、全病院を訪問。医局での資料配布など勤務医対策に取り組んだ。
- 11、『2016年病医院医師名簿』を発行し、但馬地域に隣接する病院を含む全20病院を掲載、会員から要望のあった高齢者施設一覧も掲載した。但馬地域の病院・医院からは、「病診連携に役に立つ」と好評を得ている。
- 12、支部ニュースを3回発行し、活動の報道を行った。
- 13、支部幹事会は6回開催、研究会等の企画立案を行なった。

2017年度活動方針

- 1、病診連携を深める取り組みとして「他科を知る会」(整形外科領域、皮膚科領域)をシリーズ企画で開催する。また、新たに公立豊岡病院但馬救命救急センターとの共催で「救急医療」シリーズを発足する。
- 2、歯科会員のニーズに応える企画を開催する。また、審査問題など医科歯科一体の企画を定例化する。
- 3、「地域医療を考える懇談会」など、医療・介護・保健・福祉の連携を強める機会を設ける。
- 4、審査指導対策、労務問題、パソコンなど医院の運営に役立つテーマを取り上げ、「会員懇談会」を開催する。
- 5、医院経営研究会を年一回の定例企画として開催する。
- 6、診療現場を会場に、開業医がお互いに経験を気軽に交流できる場として「日常診療勉強会」を開催する。
- 7、幹事による会員訪問を行い、支部ニュース「但馬の息吹」欄で紹介していく。
- 8、開業情報をすばやく入手して新規開業医の100%入会を目指す。また、病院訪問とともに開業医と勤務医が一堂に集える企画を開催し、勤務医に入会を訴える。
- 9、支部ニュースの定期発行を目指し、親しみやすい紙面づくりを工夫する。
- 10、魅力ある幹事会運営に務め、若手会員の支部行事への参加を促進させる。
- 11、家族や従業員が気軽に参加できるような場をつくり、互いの交流を促進させる。
- 12、文化的な企画を積極的に取り入れ、環境・人にやさしい支部活動をめざす。

— 保険医協会の共済制度がお勧めです! — 受付期間はお問い合わせください

団体定期生命保険 **グループ保険** 保険の見直しに効きます!
ネット生保と比べてみてください

■ 団体保険だから断然安い保険料	■ 過去7年の平均配当率46%	1月から制度改善を実施
■ 最高5000万円の高額保障	■ 最長75歳まで保障	66～70歳の最高保障額を、
■ 配偶者1000万円セット加入あり	■ いつでも増額・減額OK	3000万円に引き上げました。

傷病時の休業に備えて 休業保障制度 割安掛金が満期まで上がりません
非営利の共済が有利です 脱退一時金、弔慰金給付あり

積立金総額1兆2千億円 保険医年金 自在性が魅力! 1口単位で解約・
中長期の資産運用に 中断・再開が可能

協会の積立年金 従業員も加入OK! **DefL デフエル** 個人年金保険料控除がとれる個人
年金型と自在性の一般型

所得補償保険、医賠償、団体割引きの自動車保険と火災保険
お問合せは共済部まで ☎ 078-393-1805

☆投稿募集☆

先生方の投稿を募集しております。日常診療・趣味など何でも結構です。お写真などもお気軽にお寄せ下さい。

協会事務局 足立まで

TEL: 078(393)1805

FAX: 078(393)1802